

生命科学系 編

第 1

■生命科学系に属する部局は、医学部（医学科（6年制）・保健学科（4年制））、医学教育部（修士課程・博士課程）、医学部附属病院、保健学教育部（修士課程・博士課程）、薬学部（薬学科（6年制）、創薬・生命薬科学科（4年制））、薬学教育部（博士前期課程・同後期課程）、生命科学研究部、生命資源研究・支援センター、エイズ学研究センター、発生医学研究所の10部局から構成される。これら生命科学系部局は、本荘・九品寺地区又は大江地区に存在し、黒髪地区とは距離的に離れていることもあり、それぞれ独自の発展を遂げてきた。2003（平成15）年4月に大学院重点化がなされ、医学部及び薬学部の講座が再編され、医学薬学研究部が発足するとともに、教員の所属は学部から研究部に移行した。また、大学院教育に関しては、医学教育部及び薬学教育部が設置され、1研究部、2教育部体制となった。同年10月には医療技術短期大学部が4年制の保健学科に昇格したことに伴い、それまで医学科のみで構成されていた医学部が医学科、保健学科の2学科構成となった。更に2007（平成19）年4月には保健学教育部修士課程、2010（平成22）年4月には同博士課程が設置された。これに伴い保健学系教員が研究部に所属することとなり、同年1月から研究部は生命科学研究部に改組された。生命科学系に属する10部局は、それぞれ綿密な連携のもと、生命科学、特にヒトの医療・健康に関わる領域の教育・研究に鋭意取り組んでいる。